

松木日向緑地プログラム

竹の間伐・竹水鉄砲づくり

連携団体

ひなた緑地遊学会

2021年8月28日（土）

報告

2021年度の活動がスタート！

8月28日（土）、眩しい日差しが照り付ける猛暑の中、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地ボランティアプログラム」における2021年度のボランティア活動が始まりました。

今年度初の活動となった今回では、リーダー学生2名と新規の参加学生13名が、連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方々とともに、「真竹」の間伐とその竹を活用した竹水鉄砲作りに取り組みました。

集まった参加者は、暑さ対策に加え、道具の消毒やマスクの着用など感染対策を徹底して、活動を行いました。

「松木日向緑地プログラム」について

本プログラムでは、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地をフィールドとして、里山の荒廃による生態系への影響（環境的課題）、自然利用の技術・文化の伝承の断絶（文化的課題）、本学が有する豊かな資源に対する認知度の低さ（本学の課題）といった社会課題の解決に向け、里山保全・多世代交流活動に取り組んでいます。

当日の様子

竹林へ入る前に、まずは「ひなた緑地遊学会」の北出進さんより、松木日向緑地にある竹のお話を伺いました。

松木日向緑地には、「真竹」と「孟宗竹」の2種類があり、「孟宗竹」の方が多く繁殖していること、それぞれを比べると「真竹」は細いが、「孟宗竹」は太く割れにくいことなど、竹の種類やその特色について教えていただきました。

次に竹の間伐方法について学びます。

竹林に入り、相談しながら間伐する竹を選びます。



▲ 間伐する竹を選ぶ参加学生

間伐対象は、「青くない・くぼんでない竹」を選びます。



今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

鋸の使い方も教わった後、3人で1チームとなり、間伐活動を開始します。各チームで間伐する竹を見定めながら、竹を切っていきます。1人1本切ることが目標とし、初めて作業する人も含め、チームで助け合いながら間伐しました。

竹水鉄砲づくりと技術・経験の継承

各自間伐した竹を枝落としし、数等分にカットして作業場へ運び込みます。作り方のレクチャーを受け、作業開始！

水鉄砲となるには、水をためる側の竹と、水を押し出す側の竹の、太さのバランスがよいことが重要です。長さを調整し、桐で穴をあけ、やすりをかけて、スポンジや撥水布を巻いてサイズを調節します。各々の間伐した竹が、水鉄砲として変化していきます。

コロナ禍以前は、近隣の小学生やその保護者を招き、「サル山水合戦」を開催していましたが、現在はコロナ禍の影響で実施できていません。将来的な再開に向けて、学生間でその経験や技術を受け継いでいけるように、竹水鉄砲を作製しながら、過去に開催した時の様子や工夫について情報共有をしました。

竹水鉄砲が完成した後は試し打ち。「お！やった！とんだ！」と満足気な表情が多くみられました。

次回以降も引き続き、間伐活動を行いながら、竹の利活用について考えていきたいと思います。



都立大ボラセン
YouTubeチャンネル

当日の様子を公開中！

